

鹿高には、「自主自律」、「質実剛健」、「師弟同行」の綱領に支えられ、切磋琢磨を繰り返すことで追い求めてきた120有余年の知性と感性の軸で構成される時間と空間があります。その脈々と積み上げられた伝統と進化、その両方を併せ持つのが鹿高でもあります。

さて、京セラやKDDIの創業者である稲盛和夫氏は、「世の中に失敗というものはない。チャレンジしているうちは失敗はない。あきらめた時が失敗である。」と述べています。鹿高生は、3年間、勉学、部活動によく励み、入学当初に比べ心身ともに大きく成長します。人はあることに集中して取り組んでいるときは時間の流れは速く感じます。皆さんの鹿高での生活も、きっと短く感じてくれることでしょうか。3年間で様々な経験をします。良い思い出として残るものもあるでしょうし、これまでの人生の中で最も困難と思われるようなことにも直面することでしょう。しかし、「艱難汝を玉にす」という言葉があるように、多くの鹿高生は、直面した困難を乗り越え、磨かれ大きく自己を成長させることができます。何事にもチャレンジすることによって、自分の能力はさらに磨かれ、光り輝きます。

人は愛されているという自覚がなければ、他者を愛することはできません。人から愛され、自分を肯定できるから、他者を受け入れ、人間関係を築くことができるのです。さらに、そうした“愛情”がよりどころとなって、学習に励む“勤勉さ”や、社会を知り、自分を活かそうとする“聡明さ”を身につけることができるのだと思います。その様な心の学習と、そして未来への夢の実現を確実にサポートできる安定した教育環境が本校にはあると確信しています。本校の使命は、入学した生徒一人ひとりの可能性を引き出し、希望を実現させることです。そして、一人ひとりが「主役」になる学校です。皆さん一人ひとりが、その成長の場を鹿高で体現してください。

ところで、他の人や物に似せることを「真似」といいますが、同じ意味を持つ「見習う」や「模倣する」等の言葉に比べて、「真似」はしばしば悪い意味で用いられることが多いようです。「真似」と「学ぶ」は語源は同じです。「真に似せる」から「まねる」や「まねぶ」が生まれたとも、「誠に習う」から「まなぶ」が生まれ、そこから「まねる」と変化したとも、言われています。「真似」の対象を一心に見つめて、似せようと無心に技を尽くすような努力を重ねる姿こそが、新し境地を切り拓きます。例えば、江戸時代の画家伊藤若冲は、鳥や魚、虫や植物を精密に写し取りつつ、現代のグラフィックデザインを先取りするような目の覚める色彩と奇抜な配置で鮮やかに描き出しています。「真似」することで、見えない美しさの発見したというべきでしょうか。このことは、鹿高の学習においても、地道な基礎・基本の積み重ねこそが、徐々に成果を上げることに繋がるのではないかと思います。

本校を志す中学生の皆さんには、「心に3つの『き』を植える」ことを願っています。3つの「き」とは、「やる気 元気 根気」です。そして、これらの「き」を植え、鹿高で「本気」で学ぶ心構えを求めます。何事にも、自ら「本気」で取り組む気概を持つことが大切です。それが、本校の建学の精神、「自主自律」につながるからです。

皆さんには、無限の可能性があります。無限の可能性を引き出すためには、将来の自分の姿をイメージし、教科の授業や部活動、色々な学校行事に積極的に参加し、自分自身で学校生活を楽しむことです。来春、希望に向かって向上心を燃やす皆さんの中学生の皆さんが、本校の扉をたたいてくれることを心より願っています。

綱領

自主自律

進取の気象を涵養する

質実剛健

好学の気風を養成する

師弟同行

敬愛の美風を育成する

